

秋吉台の草原と 花を守るために できること。

— 秋吉台草原ふれあいプロジェクト 12年間の活動からの提案 —

2020年 3月

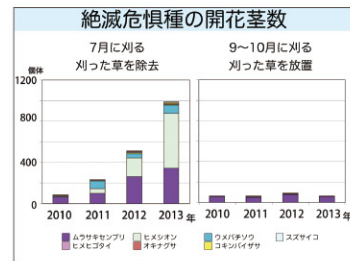


小さな花を守りたい。



初夏に刈る。

7月に刈ると、地面近くまで日が当たるようになり、夏の間再生した野草が秋にたくさん咲きます。



高刈りする。

(地面から5cmの高さで)

地面近くまで刈り込むと、再生するのに必要な部分まで刈ってしまいます。

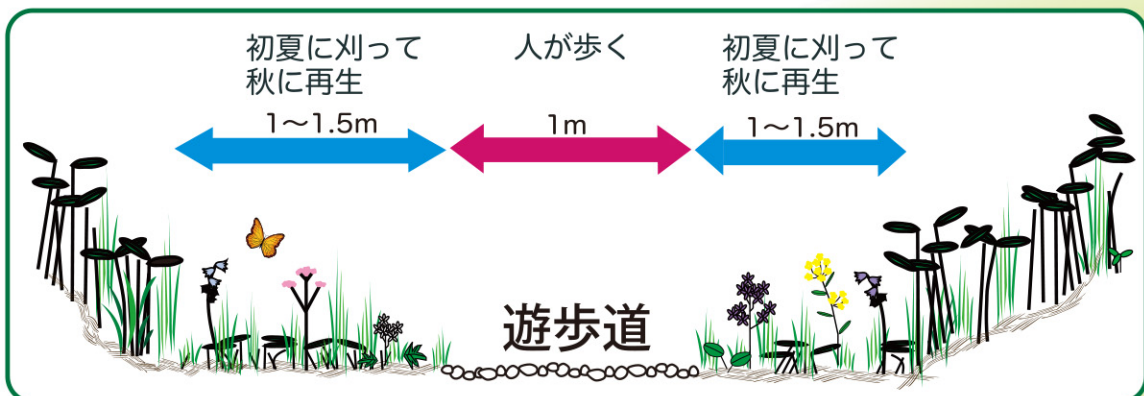


刈った草は脇に寄せる。

草をかぶせた状態では花は再生しません。



9~10月に刈る、草を寄せない



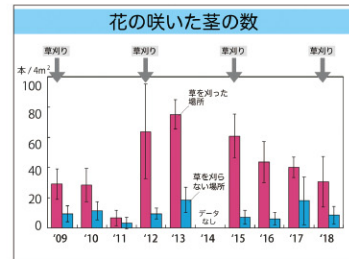
※ 草の高さが気になる場合は、歩道の真ん中だけ9~10月に再整備する。

秋に咲く野草を増やしたい。



初夏に刈る。

7月に刈ると、地面近くまで日が当たるようになり、夏の間再生した野草が秋にたくさん咲きます。



刈る場所を時々変える。

毎年同じところを刈ると、草丈が低くなり、生える植物の種類も変わってきます。草丈が高めの花を楽しむためには、定期的に場所を変える必要があります。



刈った草は地元の畑に。

草原の草をサトイモの根もとに敷いたり、スイカの敷きものにしたりするのが、秋吉台の伝統的な草の使い方です。草も大事な資源です。



畑に敷いた野草には、病原菌をやっつける善玉菌がたくさん。

野草のチカラ

秋吉台の野草マルチ: 310万 CFU/g乾物
阿蘇の普通の農地: 29~42万 CFU/g乾物

佐賀大学農学部
柴谷 孝 助教授

植物の抵抗性強化

抗生物質をつくる

先住効果

腐植物質をつくる

野草のチカラ

野草のチカラ

サトイモの日焼けをふせぐ

雑草抑制

土の乾燥をふせぐ

肥料になる

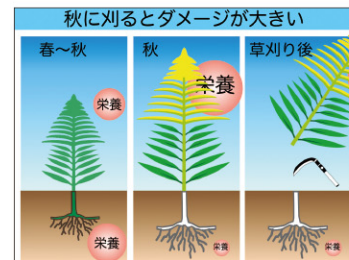
土がふかふかになる

外来植物を減らしたい。



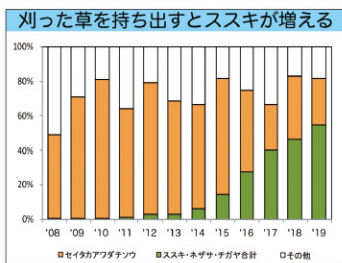
毎年9月に刈る。
(花が咲く直前に)

花が咲く直前には、植物の栄養分のほとんどは地上部に集まっています。この時期に刈る一番ダメージが大きく、駆除に有効です。



刈った草は持ち出す。

刈った草を置いておくと、栄養分がまた土にかえり、駆除したい植物がそれを利用してまた大きくなります。土の栄養を減らすためにも草は持ち出しましょう。



5年以上作業を続ける。

草原の再生はゆっくり進みます。状況をよく見ながら気長に作業を続けましょう。



土の栄養を減らし、酸性にするのがポイントです。

